

株式会社 ファミリーマート御中

タイ王国

子どもの水の事故防止推進事業

第3 四半期報告書



2020年1月

公益社団法人セーブ・ザ・チルドレン・ジャパン

## I. はじめに

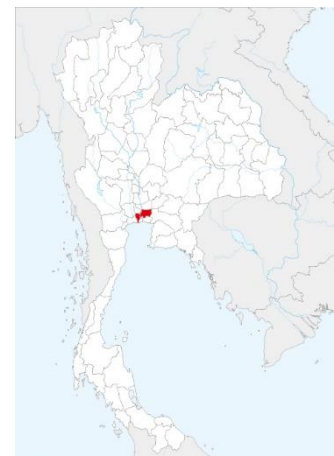
事業名	子どもの水の事故防止推進事業
事業地	タイ バンコク都
事業期間	2019年3月 - 2021年2月 (24ヶ月)
報告対象期間	2019年9月1日 - 2019年11月30日
事業の総受益者	バンコク市内の小学校 14校 (1年次の対象8校の合計生徒数：3,329人)
御社ご支援額	450,000米ドル

2019年3月より開始しました、タイにおける子どもの水の事故防止推進事業へのあたたかいご支援をいただき、ありがとうございます。御社のご寄付が、子どもたち、教師や保護者、コミュニティの水の事故予防のための知識の向上につながっています。心からの感謝をお伝えするとともに、活動の報告をいたします。今後も引き続きのご支援をお願いいたします。

## II. 背景と本事業の目的

### 1. 事業対象地の子どもたちを取り巻く課題

洪水、サイクロン、津波などの自然災害が多発し、また都市部においても川や湖などの水資源が豊富にあるタイでは、水の事故による死者数が特に多いとされており、子どもの水の事故のリスクの高さは、深刻な問題となっています。15歳以下の子どもの死亡原因で最も多いのが溺死であり、2000年から2018年までの間に合計2万2千人以上の15歳以下の子どもが亡くなっています<sup>1</sup>。また、障害のある子どもは災害の際、特にリスクが高いことから、特別な配慮が必要です。子どもたちが安心して暮らせる社会づくりのためには、彼らが水の事故を予防できるようになるための正しい知識の習得が欠かせません。



対象地：バンコク都（タイ王国）

### 2. 本事業の目的

本事業は、障害のある子どもも含めたより多くの子どもたちに、子どもの水の事故を防ぐための水泳教室の実施、行政に対する政策提言を通し、水上安全のメッセージと予防のための知識と技術を広げていくことを目的としています。

### 3. 前四半期までの事業の進捗

2019年3月から開始した本事業では、これまでに、事業に参加する8校の小学校の教師に対し、子どもの水の事故予防のための指導者研修を実施したのち、5校において、小学4年生から6年生を対象に講習と泳法訓練を実施し、計304人の生徒（女子157人、男子147人）が参加しました。また、災害時には特に障害のある子どもがその影響を受けやすいことから、特別なニーズのある子どもの水の事故予防を本事業で推進していくために、障害のある子どもに関する活動を行う関係機関との協議を開始しています。

<sup>1</sup> [Bangkok Post 28<sup>th</sup> March 2019](#)

### Ⅲ. 活動報告と主な成果

---

#### (期待される効果 1) 子どもとその家族、地域住民が、水の事故予防のための知識と技術を習得する

##### 指導者向けリフレッシュ研修

2019年10月、教育省特別教育局の支援のもと、指導者研修の一部として2日間のワークショップを Suan Bua 小学校において実施し、事業対象校の8校から計22人の教師(女性9人、男性13人)が参加しました。このワークショップは、教師たちがこれまでの研修で学んだ水の事故予防の知識や泳法技術について振り返りながら、次の学期の講習の計画を立てること、タイにおける子どもの水の事故の現状を理解すること、障害のある子どもが水の事故予防の活動に参加する重要性を理解すること、そして、障害のある子どもに対する教授法について学ぶことを目的としました。

このワークショップに参加した Wat Wetawanthammawat 小学校の体育教師は、障害のある子どもに水泳を教えた時の経験をこう話しました。

「私の学校では、肢体不自由、注意欠陥多動性障害、学習障害など、様々な障害のある子どもが学んでいます。皆、特別な支援を必要としており、水泳の技術を習得するにも時間を要します。プール周辺でけがを負いやすいことにも留意しなければなりません。私は、子どもたちの感情をいかに理解し支えられるかが鍵だと思っています。彼らは、上手に水に浮くことができる時もあればできない時もあります。できない時は、泳ぎたいという気持ちではないだけである、ということ、私たちは理解しなければなりません。また、水に浅いところと深いところがあることや、安全な場所と危険な場所があることを認識することが難しく、そのため、安全性を確認せずに水に入ってしまうことがあるということも、理解しなければなりません。一方で、水泳の授業で積極的に仲間をサポートする子どももいます」。

こうした体験談を聞いたり、様々な種類の障害の特性や彼らとのコミュニケーションの取り方などについて理解を深めた参加者からは、このワークショップが有益であり、また、障害のある子どもに教えることについて前向きに感じられるようになったとのコメントがありました。

##### 生徒たちへの6週間講習の実施

この報告期間中は、学校にプールを有する Sanghirun 小学校と Suan Bua 小学校において、泳法訓練を実施しました。この2校は、「全校生徒が泳ぐことができるようになる」ことを目指しています。水泳教室では、生徒は水難に備えた泳法技術を学び、ロープなどの道具を使い、仲間同士で救助しあう練習も行いました。また、心肺蘇生法についても、子どもの安全推進・傷害予防研究センターの協力のもとに実施しました。この講習には、Sanghirun 小学校から計25人(女子14人、男子11人)、Suan Bua 小学校からは計49人(女子27人、男子22人)が参加しました。講習内容の理解度を測る事前・事後テストにおいては、Sanghirun 小学校では、生徒たちの理解度が56%から59%へと上がりました。一方、Suan Bua 小学校では、日程の関係上事前テストを行うことができなかったため、事後テストのみの実施となりましたが、生徒たちの理解度は75%と高い結果となりました。



(左) 心肺蘇生法の講習を受ける生徒たち、(右) 学校周辺の水の事故のリスクが高い場所を分析する生徒たち  
(2019年9月、Sanghirun 小学校)

### 生徒たちへの3日間キャンプの実施

7月と8月には、4校の計318人の生徒たちが3日間キャンプにて水の事故予防のための講習に参加しています。次学期の3日間キャンプは、2019年12月から2020年1月にかけて、Anuban Phibunwes 小学校と Surao Bandon 小学校にて実施する予定です。

### 参加者の声

この事業に参加するまで、クインタさんは泳ぎ方を知りませんでした。彼女の両親もまた、「危険だから」と水泳の練習に彼女を行かせることもなかったため、彼女にとってはこれが、初めての水泳講習でした。最初は不安だった彼女も、講習で安全な泳ぎ方を知り、泳ぐことがとても好きになりました。また、心肺蘇生法の講習については、「人を助けることができるとも大切な知識を得ることができました」と感想を述べました。

(クインタさん、11歳、Sanghirun 小学校)



### Photo-Voice

4月に行われた指導者研修において、教師たちは Photo-Voice の手法について学びました。Photo-Voice は、写真撮影やディスカッションを組み合わせた参加型の調査手法です。それぞれの学校では、地理の授業において、生徒たちが水の事故のリスクがある地域の写真を撮影し、その写真を使用してディスカッションを行い、リスクの分析を行っています。この分析の結果は、それぞれの学校内の掲示板に掲示したり、イベントで発表したりしています。この取り組みは、子どもたちの主体的、積極的な学びを促すだけでなく、教師、保護者やコミュニティの能力強化を行いつつ、コミュニティ全体で子どもの水の事故を予防することを目的としています。

### シード・ファンドを通じた活動支援

教師や生徒たちは、この事業を通して得た知識を活用し、それぞれの学校で独自に水の事故予防のメッセージを普及させる活動を行うことを期待されています。本事業は、「シード・ファンド」でその実施に必要な費用を支援しています。6月には事業対象校に対し、このファンドの申請についての説明を行い、その後、8校全てが、それぞれの学校において水の事故予防の活動を計画・申請し、実施するための資金を得ました。現在、生徒たちは、それぞれの学校で学習用教材やポスターなどを作成しています。各学校が作成した教材などの成果物は、バンコク都庁、教育省基礎教育局、私立教育委員会にも共有する予定です。



## （期待される効果 2）地方及び国レベルで、インクルーシブな水の事故予防教育が普及する

### ワーキング・グループの設立

子どもの水の事故予防に関係する機関と障害の専門家をつなぎ、協力体制を構築することを目的に、障害のある子どもにやさしい水の事故予防のためのワーキング・グループを設立し、9月に第1回の会議を実施しました。この会議には、教育省特別教育局、保健省疾病予防局、社会開発・人間の安全保障省の障害者エンパワーメント局、内務省災害防止軽減局などから計7人（女性3人、男性4人）が参加し、障害のある子どもの水の事故予防のための戦略と枠組みをつくっていく必要性に合意しました。



ワーキング・グループの会議に集まった関係者たち  
(2019年9月、バンコク都)

### バンコク都庁との協議

事業チームは、バンコク都庁教育局とは8月に、バンコク初等教育地域局、私立教育委員会とはそれぞれ11月に会議を行い、事業の進捗について共有し、また、子どもの水の事故予防プログラムの持続性について話し合いました。この事業を実施するにあたっては、教師の能力を強化することで、学校で継続的に教師が生徒に教えることができるようになる体制をつくっています。また、水の事故予防に関するトピックを他の科目の授業にも取り入れることで、学校における水の事故予防プログラムの継続的な実施を期待することができます。会議では、これらの取り組みでプログラムの持続性が高まれば、学校における水の事故予防の活動への政府予算の充実につながるのではないか、という議論がなされました。さらに、障害のある子どもにやさしいプログラムの開発についても、会議参加者はその重要性について賛同しました。

### 障害のある子どもにやさしい水上安全ガイドライン作成

障害のある子どもたちは、他の子どもたちとコミュニケーションをとることが難しいことがあり、また、困った時にどのように周囲に助けを求めればよいのかもわからないことがあります。災害に直面した際に、どのように自らの身を危険から守るかもわからないことが多いのです。保健省精神保健局は、タイに80万人以上いる、自閉症や注意欠陥多動性障害、学習障害などの精神障害のある子どもたちが、特に水の事故に遭いやすいという懸念を示しています。実際、水の事故に遭う子どもの多くが、自閉症や知的障害の子どもたちです<sup>2</sup>。そのため、保護者など周囲の人々がより注意して見守る必要があります。

本事業では、障害のある子どもたち自身が水の事故を予防するための知識だけでなく、彼らが溺れそうになった時、周囲の人がどのように救助すべきかについての知識も含むガイドラインを、教育関係者および保護者向けに作成することを検討しています。このガイドライン作成にあたっては、教育省特別教育局の協力を受けており、10月に教師向けに実施した2日間のワークショップ（上述の「指導者向けリフレッシャー研修」を参照）では、水の中で、目隠しをしたり、また腕や足が動かないように固定した状態で水に浮いたり、また、自閉症の子どもとのコミュニケーションを想定したロールプレイを行ったりしました。

<sup>2</sup> <https://th.rajanakul.go.th/preview-3097.html>



教師たちは、障害のある子どもが水の中でどのように不安を感じるかを知るため、目隠しをした状態や（左）、足や腕が動かないように固定した状態（右）で水に入りました（2019年10月、Suan Bua 小学校）

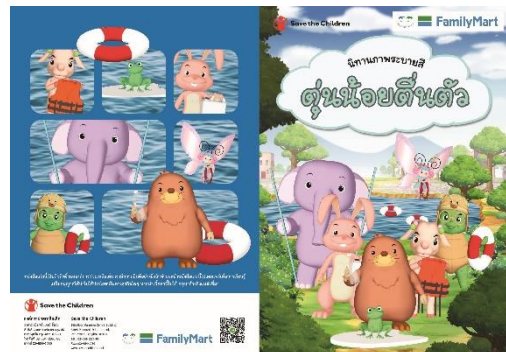
このワークショップの後、事業チームは教育省特別教育局と会議を行い、ガイドライン開発のためのアイデアや障害のある子どものための特別講師の養成などについて話し合いました。その結果、まずは、自閉症の子どもたちを水の事故から守るためのガイドラインを作成することに合意し、今後、専門家の協力を得ていくことになりました。

### 振り返りワークショップ

事業チームは、事業対象校の8校から計22人の教師（女性13人、男性9人）を招き、次学期の活動計画策定に向け、これまでの活動について振り返るワークショップを行いました。Suan Bua 小学校と Wat Wetawanthammawat 小学校からは、それぞれの学校で活動を行うにあたり、どのように計画し実施していくかについての具体的な共有がありました。

### “Alert Little Tun<sup>3</sup>”アニメーションを使用した啓発メッセージの普及

セーブ・ザ・チルドレンは、子どもたちの意識啓発を目的に、タイ公共放送（Thai PBS）を通し、本事業期間中に26本の“Alert Little Tun”のエピソードを放送しており、11月末までのオンライン上での視聴数は合計12万以上となっています。オンラインだけでなく、塗り絵本の印刷、配布なども通して、子どもたちへの水の事故予防のメッセージの普及に取り組んでいます。



Alert Little Tun の塗り絵本の表紙

<sup>3</sup> モグラのキャラクター“Tun”が動物の仲間たちと防災（特に洪水災害への対応）について学んでいくストーリー。先行事業で作成した13のエピソードを含め、セーブ・ザ・チルドレンはこれまでに26エピソードを作成しています。Thai PBS の“Alert Little Tun”のサイト：  
<http://program.thaipbs.or.th/LittleTun>

## ソーシャルメディアを通じたキャンペーンの実施

セーブ・ザ・チルドレンは、上述の“Alert Little Tun”以外にも啓発のための映像を作成しており、タイ公共放送はこの映像の放送も検討しています。1 本目の映像<sup>4</sup>は、子どもの水の事故予防の大切さを訴える内容です。この映像に出てくる市長は自らの息子を溺死で亡くしており、コミュニティにおける水の事故のリスクを軽減するために現地行政の協力を訴えています。2 本目の映像<sup>5</sup>は、教師、保護者、生徒たちが、政策決定者に対し、水の事故予防について子どもたちが学ぶ機会を得られるように訴える内容です。子どもの水の事故は特に3月から5月に増えるため、2020年の第1四半期に、この映像が放送される予定です。



タイ公共放送は、学校における啓発活動の取材を行いました（2019年11月、Prathomnonsee小学校）

## V. 今後について

2019年12月以降は、主に以下の活動を予定しています。

- ・ 各学校において、引き続き、教師や生徒が中心となって水の事故予防のメッセージを広めるための啓発活動を計画し、実施します。
- ・ Anuban Phibumwes 小学校と Surao Bandon 小学校にて、水の事故予防の講習や泳法訓練を実施する予定です。
- ・ 関係省庁の協力のもと、障害のある子どもにやさしい水上安全ガイドライン作りを進めていきます。
- ・ 2020年2月には、生徒たちが1年間の取り組みの成果を披露するイベントを実施します。

<sup>4</sup> [Video: the Deep South's community](#)

<sup>5</sup> [Video: Bangkok school](#)

参考資料 活動スケジュール（1年次） ※実施済みの活動はXで表記

活動	2019											2020	
	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	
学校長期休暇期													
事業レビュー（内部）		X			X			X					
リクルートメント		X	X	X									
キックオフ・ミーティング（内部）	X												
事業実施計画書最終化	X	X	X										
資機材購入		X	X	X									
活動 1													
学校選定	X	X											
教師に対する指導者研修		X											
教師に対するリフレッシャー講習								X					
生徒たちに対する、水の事故予防のための6週間講習の実施					X	X	X		X				
生徒たちに対する、水の事故予防のための3日間キャンプの実施					X	X							
PhotoVoiceの実施					X	X	X		X				
各学校における啓発活動の支援						X	X		X				
事業成果披露イベント													
"Alert Little Tun"のCDや啓発教材（塗り絵本）の印刷		X	X	X				X	X				
水の事故予防学習のための資材購入		X	X	X									
活動 2													
教育省との四半期ミーティング	X			X			X						
インクルーシブ教育ワーキング・グループの設立			X	X	X	X	X						
インクルーシブ教育ワーキング・グループの会議実施			X	X	X	X	X	X	X				
インクルーシブな水の事故予防ガイドラインの作成							X	X	X				
水の事故予防カリキュラムのミーティング													
サクセス・ストーリー集の作成および印刷							X						
水の事故予防に関する一般向けの啓発活動	X	X	X	X	X	X	X	X	X				